

1. 各取組の中間評価と課題

(1) 森林生態系の保全・再生

1) ニホンジカによる森林生態系被害が顕著な箇所における緊急保全対策

ニホンジカによる森林生態系被害が顕著な箇所における緊急保全対策【概要】

- ・緊急保全対策（大規模防鹿柵、小規模防鹿柵、剥皮防止用ネット）を実施した箇所については、ニホンジカによる林冠構成種の母樹および後継樹、下層植生への影響を抑制することができており、後継樹や下層植生は回復しつつある。一方、柵内でミヤコザサの被度が上昇した箇所では、実生の定着や後継樹の成長が阻害されるという課題がある。
- ・防鹿柵や剥皮防止用ネットについては、引き続き点検・管理を適切に実施する。
- ・大規模防鹿柵の設置予定箇所完了後に防鹿柵設置効果の全体評価を行うとともに、新規設置や線形変更等含めた対応の必要性について検討が必要である。また、剥皮防止用ネットの未設置区域で、新たな剥皮が多くみられる箇所については、新規設置を行う必要がある。

ニホンジカによる森林生態系被害の抑制

●評価

第1期推進計画の策定以降、大規模防鹿柵、小規模防鹿柵、剥皮防止用ネットの設置などの取組を継続してきた結果、柵内では林冠ギャップ地を中心に林冠構成種の後継樹の回復が見られたほか、草本を中心とした下層植生の回復が見られており、植物の確認種数が増加傾向にある。

i) 大規模防鹿柵

2014計画（第1次～第2次）期間中に11箇所、約26.3haの大規模防鹿柵を設置し、現在までに設置した大規模防鹿柵は、計69箇所（図4-1-1）、約90.2haとなった。植生の回復には長期間必要となることから、設置後は防鹿柵カルテを整備・更新し、点検・修繕等の適切な管理を実施している。

ii) 小規模防鹿柵

2014計画（第1次～第2次）期間中は新たな小規模防鹿柵の設置は実施していないが、平成18（2006）年度から現在までに設置した22箇所について、点検・修繕等の管理を実施している。しかしながら、点検・修繕等の記録が残されていないことから、適切に管理を行うために、設置年度、設置場所、箇所数などを示した管理台帳等を新たに整備し、運用する必要がある。

iii) 剥皮防止用ネット

剥皮防止用ネットについては、2014計画（第1次～第2次）期間中は新規・更新を合わせて1,638本設置した（更新は、既設の金属製ネットは樹上性蘚苔類の生育に影響があることから、樹脂製ネットへ変更するもの）。しかしながら、点検・修繕等の記録が残されていないことから、適切に管理を行うために、設置年度、設置場所、箇所数などを示した管理台帳等を新たに整備し、運用する必要がある。

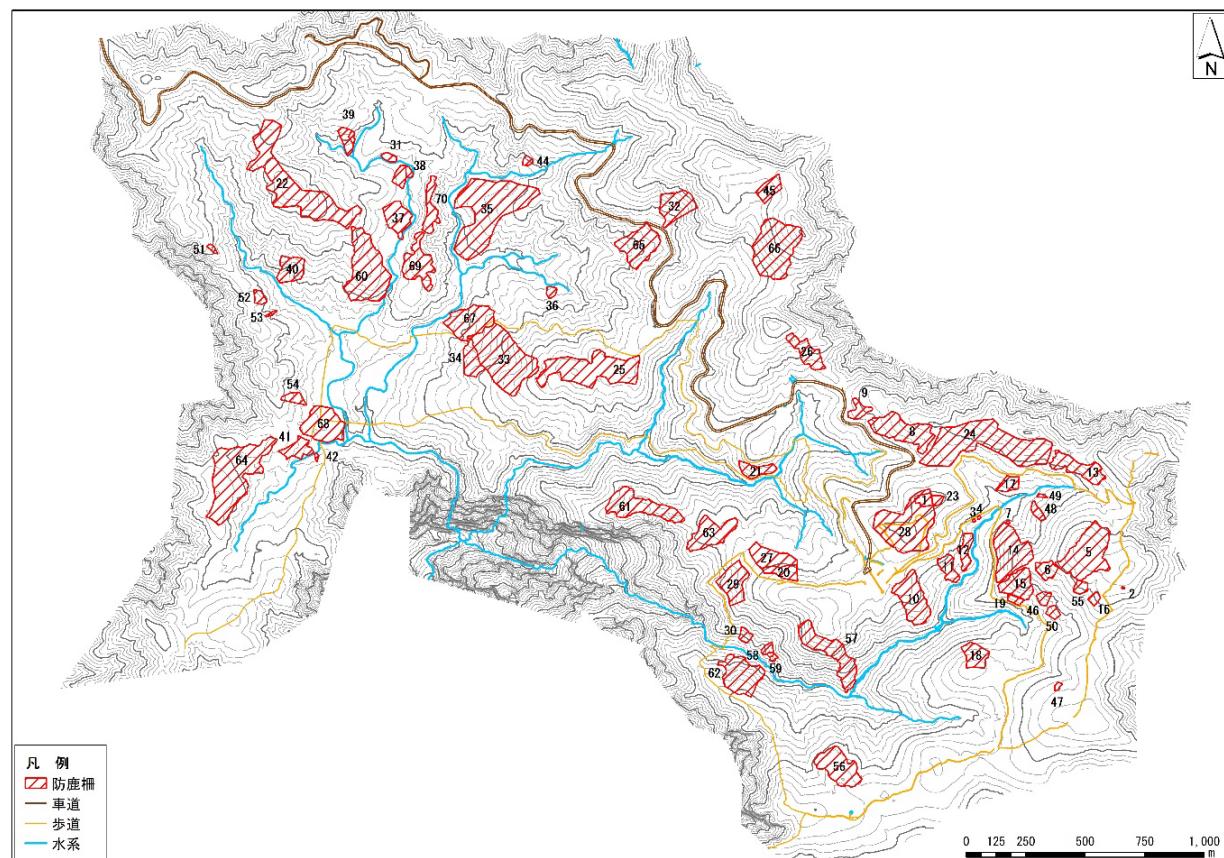


図 4-1-1 大規模防鹿柵設置位置(令和 7(2025)年 3 月まで)



金属製ネット

樹脂製ネット

写真 4-1-1 剥皮防止用ネット